

## 文教環境委員会

### 審査のポイント（議案第9号）

#### 「鈴鹿市立図書館条例の全部改正について」

（問） 図書館分館での企画・管理運営の体制についてどうか。また、駐車場も狭いが、今後の運用についてどうか。

（答） 図書館本館の司書とも連携を図り、行事の際などは本館から応援に行くなどの対応をとる。分館の館長についても図書館長が兼務し、頻繁に分館に顔を出すようにする。また、本館において分館の副担当をつくり、分館の担当者が休んでもスムーズに対応できる体制をとる。

駐車場の運用について、駐車場所が足りなくなる際は、今までのとおり市立体育館の駐車場の利用を考えている。しかし、分館に移行した後の利用の状況を見ながら、どの程度駐車場所が不足するのかといった点を精査しながら検討していく。

### 審査のポイント（議案第18号）

#### 「鈴鹿市立幼稚園条例の一部改正について」

（問） 市立幼稚園と私立幼稚園との保育料の金額差について、どのように考えた上で今回の条例改正に至ったのか。

（答） 今年度については、現行の負担水準をベースに考えていこうということで設定した。しかし、公立・私立の金額差があるという状況は残る。今回、公立・私立の金額差を無くした自治体、また、本市のように金額差を残した自治体とある中で、今後の課題と認識し、それぞれの市町におけるメリット・デメリットについて情報収集をしながら対応を考えていく。

## 予算決算委員会

### 総務分科会

#### 審査のポイント（議案第1号）

#### 「平成27年度鈴鹿市一般会計予算」

（問） 歳入の個人市民税について、緩やかな個人所得の伸びが見込まれるものの、生産年齢人口の減少の影響から1億7,023万5,000円の減少を見込んでいるが、生産年齢人口の減少と、緩やかな所得の伸びとはどのように想定したのか。

（答） 生産年齢人口は、15歳から64歳までの方を対象として、昨年9月時点で12万6,936名であった。1年前の平成25年9月時点で、12万8,544名ということで、1,608名減少している。来年度の9月時点については、1,636名の減少を見込み12万5,300名を予想している。

緩やかな所得の伸びについては、日本経済新聞等で前年度比の「給与、現物支給に関するデータ」を参考に、0.1から0.3程度の伸びが見込まれると予想している。